

平成28年度 徳島県 田園環境検討委員会
環境配慮実績 報告書

徳島県 農山漁村振興課

平成29年3月 とりまとめ

農業農村整備事業の環境配慮 平成28年度実績

平成29年3月現在の状況

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等
35	H19	経営体育成基盤整備事業	段岡 (嶋門市)	②最小化	・希少魚類(カワバタモロコ等)の生息環境に配慮した排水路の構造とする。	①回避	・関係機関と連携して、カワバタモロココの増殖・環境学習に取り組んだ。 【原因】 ・平成26年度に放流したカワバタモロコは、水槽で飼育されたものであり、自然環境への耐性が弱かったため。	・平成26年度に地区外のため池に放流し、平成27年度は生息が確認されたが、平成28年度は確認できなかった。
43	H22	経営体育成基盤整備事業	坂野2期 (小松島市)	⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ・アゼスゲ等)は、代替えの生息地へ移植する。	④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ)を代替の生育場所へ移植するとともに、種子を採取し、工事の完了している畦畔に播種した。 ・希少植物(アゼスゲ)を一時避難させた。(工事完了後に戻す予定)	・移植箇所において、良好に生育していることを確認。
45	H23	ため池等整備事業	新池 (三好市)	②最小化	・在来水生動物の生息環境には、工法の選定により影響をできるだけ少なくする。	④軽減/消失	・堤体内側の張りブロックについて、魚介類の生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸(ブロックマット)を使用した。	・過年度に実施した箇所については、植物が繁茂してきている。
46	H24	経営体育成基盤整備事業	長生西部 大谷工区 (阿南市)	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・濁水流出対策として、工事現場内に沈砂地の設置及び、工事中の作業機械の点検整備に努め、重機からの油類の流出・飛散に注意して工事を行った。	
48	H25	ため池等整備事業	相名池 (阿南市)	④軽減/消失	・水田表土の再利用を行い生育環境を復元する。 (ミズアラビ、ミズマツバ)	④軽減/消失	・希少植物の種子を含む表土を剥ぎ取って保管し、整備後の水田の表土として再利用することで、生育環境の復元に努めた。	工事実施中
50	H26	ため池等整備事業	源太池 (阿波市)	④軽減/消失	・希少種(コカメメヅル)の個体及び埋土種子を含む表土を、影響の無いところに仮置きし、工事後に播く。事前に種子を採取し、工事後に播く。	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際に、徐々に水を排出し、在来の水生動物が避難できるようにした。	・避難先において、良好に生育している。

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	段関	市町村	鳴門市
事業所名	東部農林水産局<徳島>	課名	農村整備第一	採択年度	H19

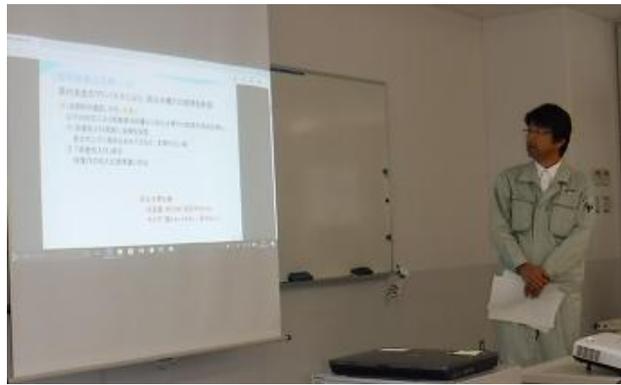
環境配慮の内容：①回避

・カワバタモロコの分散飼育・増殖に取り組んだ。

①回避

協定書に基づいて、絶滅危惧種「カワバタモロコ」を、大塚製薬徳島板野工場、日亜化学工業、鳴門市大津西小、鳴門市、徳島科学技術高校へ譲与し、分散飼育するとともに、増殖や環境学習に取り組んだ。

1. 徳島科学技術高校での連絡会議（平成28年10月）



各団体の生育・繁殖状況を報告いただくなかで、1箇所での繁殖を繰り返すことによる「遺伝的多様性」の低下が懸念された。このことから、近親交配を軽減するため、各協定先で飼育している親魚の交換会を開催することとなった。

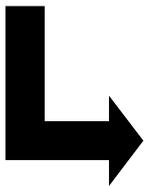
2. 大塚製薬徳島板野工場での親魚交換会（平成28年11月）



ビオトープ池での捕獲作業



捕獲した個体（交換する個体）



各団体が持参した個体の交換、放流



事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	坂野 2 期	市 町 村	小松島市
事業所名	東部農林水産局<徳島>	課 名	農村整備第一	採択年度	H 2 2

環境配慮の内容：④軽減／消失 ⑤代償

- ・ミズタカモジの種子採種・育成・移植及びモニタリング調査を行った。
- ・アゼスゲの仮移植後のモニタリング調査を行った。

⑤代償

ほ場整備区域内に生息するミズタカモジの種子を採種するとともに、平成 2 7 年 6 月に作った実生苗の生育管理を行った。

1. ミズタカモジの種子採種について



種子の採種状況（平成 2 8 年 5 月）



採取・選別された種子

2. ミズタカモジの実生苗の生育管理



実生苗作成時（平成 2 7 年 6 月）



生育状況確認（平成 2 8 年 6 月）

※工事完了後または自生定着が確認できるまで担保として生育管理を行っている。

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	坂野 2 期	市 町 村	小松島市
事業所名	東部農林水産局<徳島>	課 名	農村整備第一	採択年度	H 2 2

環境配慮の内容：④軽減／消失 ⑤代償

- ・ミズタカモジの種子採種・育成・移植及びモニタリング調査を行った。
- ・アゼスゲの仮移植後のモニタリング調査を行った。

④軽減／消失

ほ場整備区域内の工事影響範囲に生息するミズタカモジの移植を行うとともに、昨年度、仮移植したアゼスゲの生育状況について、モニタリング調査を行った。

3. ミズタカモジの移植及びモニタリング調査



<p>個体採取状況（平成 2 8 年 6 月）</p> <p>平成 2 8 年度の工事影響範囲にある個体を採取し、生育基盤の良好な箇所へ移植を行った。</p>	<p>モニタリング調査（平成 2 8 年 5 月末）</p> <p>平成 2 7 年 6 月に移植・播種した個体のモニタリング調査を行い、結実を確認した。</p>
---	---

4. アゼスゲのモニタリング調査



（平成 2 8 年 4 月時点）

ほ場整備工事着手前（平成 2 7 年 1 2 月）に一時避難させていた個体の生育状況確認を行った。多くの個体が開花、結実しており良好に生育していることを確認した。一時避難させていた個体については、平成 2 9 年度に、元々の生育場所へかえす予定。

事業名	ため池等整備事業	地区名	新池	市町村	三好市
事業所名	西部総合県民局<三好>	課名	農村保全	採択年度	H23

環境配慮の内容：②最小化

・ため池の法面保護工について、環境配慮型護岸での施工を行った。

②最小化

ため池堤体内側の法面保護工（張りブロック）について、魚介類の生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸（ブロックマット）を使用した。

1. 事業着手前



2. 工事施工中



ブロックマット表面

過年度施工箇所においては、植生が繁茂してきている。

事業名	ため池等整備事業	地区名	新池	市町村	三好市
事業所名	西部総合県民局<三好>	課名	農村保全	採択年度	H23

環境配慮の内容：④軽減／消失

・ため池内に生息する魚類の避難放流を行った。

④軽減／消失

ため池内に生息する魚類を近隣同一水系のため池に避難放流を行った。

1. 魚類捕獲状況



ため池整備工事に着手する前にため池内の溜水をゆっくりと排水し、ため池内に生息する魚類を保護・捕獲を行った。

2. 放流状況



保護・捕獲した個体については、新池と同一水系のため池に避難放流を行った。

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	長生西部	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村保全	採択年度	H12

環境配慮の内容：④軽減／消失

・ほ場整備工事において、在来植生や在来水生生物の生息環境への影響を軽減する対策を行った。

④軽減／消失

1. 濁水流出対策



工事現場内に「沈砂池」を設置し、地区外への濁水流出防止に取り組んだ。

2. 重機からの油類の流出・飛散対策



工事作業機械の始業前点検を徹底し、重機からの油類の流出及び飛散に注意して工事を行った。

3. 在来植生の生育環境の復元



【水田表土の仮置状況】



【水田表土戻し状況】

在来植生の種子等が含まれる表土を剥ぎ取って保管し、整備後の水田の表土として再利用することで、生育環境の復元に努めた。

事業名	ため池等整備事業	地区名	相名池	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局<阿南>	課名	農村保全	採択年度	H25

環境配慮の内容：④軽減／消失

・ため池改修工事において、池内の水を抜く際に、水を徐々に排出し、在来の水生生物が避難できるように配慮した。

④軽減／消失

池内の水抜きをする際、斜樋（取水施設）を上から順に空ける等、地元関係者と調整し、徐々に水位を下げるとともに、ため池内部に溜水域を確保し、モノアラガイ等の在来水生生物が避難できるように努めた。



モノアラガイの生息状況確認（斜樋付近）



モノアラガイ生息状況の確認

事業名	ため池等整備事業	地区名	源太池	市町村	阿波市
事業所名	東部農林水産局<吉野川>	課名	農村整備担当	採択年度	H26

環境配慮の内容：④軽減／消失

- ・ コカモメヅルの一時回避を行った。

④軽減／消失

ため池整備工事に係る進入路の影響範囲に生息する希少植物（コカモメヅル）を一時的に回避させるため、生息位置の調査を専門家及びインターンシップ生（大学生）の協力のもと実施した。

生息位置の確認後、影響を受けるとされる個体の採取を行った。ため池整備工事完了後、元の生息地に戻す予定である。

1. コカモメヅルの生息位置の確認作業（平成28年9月7日実施）



コカモメヅル

事業名	ため池等整備事業	地区名	源太池	市町村	阿波市
事業所名	東部農林水産局<吉野川>	課名	農村整備	採択年度	H26

環境配慮の内容：④軽減／消失

- ・ コカモメヅルの一時回避を行った。

2. コカモメヅルの採取作業



3. 苗ポットへの移し替え作業



苗ポットへの移し替え完了（専門家が管理）



協力してくれたインターンシップ生（大学生）



農業農村整備事業の環境配慮計画・実績(H28まで)

青色の箇所は、H27年度までの環境配慮の実績
添付資料：H28年度の環境配慮の実績

平成29年3月現在の状況

採択年度 番号	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
1	H15 土地改良総合整備事業	昭和2期 (阿波市)	④軽減/消失	・在来水生動植物の生息環境の保全のため、現況開水路を存置し用水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	④軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。	・工事前と同様の環境が保全されている。
2	H15 土地改良総合整備事業	上喜来2期 (阿波市)	①回避 ⑤代償	・カワヂンヤの保全のため、農道の路線変更(回避)或いは移植(代償)を検討する。	①回避 ⑤代償	・徳島県立博物館の小川主任学芸員に相談、検討したところ、「付近広範囲にカワヂンヤが生育していたので、特に移植等は必要なし。」ということで、特別な対応はしていない。	
3	H15 中山間地域総合整備事業	相生中央 (那賀町)	②最小化 ④軽減/消失	・水生動植物の生息環境の保全のため、水路側壁の工法の検討を行う。	②最小化	・農業用排水水路の、水路側壁に緑草ブロックを設置し、植物の生育環境及び景観に配慮した。	・工事後植物が繁茂している。
4	H15 農免農道事業	池田2期 (池田町)	②最小化	・計画路線付近に生育する希少植物(ユキモチソウ)に配慮する。	④軽減/消失	・希少植物(ユキモチソウ)を痛めないように、ロープを張って注意して施工した。	・平成19年4月に開花を確認した。
			②最小化	・取水堰の計画にあたりは、魚類(ヤマヌマエビ)が遡上できる構造を検討する。	②最小化	・取水堰は、魚類(ヤマヌマエビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。	・平成19年夏・秋季の2回モニタリング調査を実施。
			①回避 ②最小化	・水田内のよけ(山際の土水路)を残す等により、水田依存種(ドジョウ等)の保全を検討する。	②最小化	・水田内のよけ(山際の土水路)を再設置し、水田依存種(ドジョウ等)の生息環境に配慮した。	・ヤマヌマエビは、取水席堰の上下流で確認された。 ・ドジョウ等の生息は、個体が確認された。
5	H15 農免農道事業	池田2期 (池田町)	②最小化	・農村環境・景観保全のため、適切な畦畔の管理あるいは石積み再利用をおこなう。	②最小化	・農村環境・景観保全のため、適切な畦畔の管理あるいは石積みの再利用をおこなった。	
			④軽減/消失	・道路を横断する谷川(横断暗渠)は、魚類(ナガレホトケドジョウ)が遡上できる構造を検討する。	④軽減/消失	・池田2期地区の事業計画の見直しにより、計画箇所の工事施工は、池田地区での実施に変更となった。	
			②最小化	・側溝の整備において、ヒキガエル等の徘徊性動物の移動経路を確保するため、落下しないあるいは這い上がる構造を検討する。	②最小化	・池田2期地区の事業計画の見直しにより、計画箇所の工事施工は、池田地区での実施に変更となった。	
5	H15 農免農道事業	美馬中野 2期 (美馬市)	①回避 ⑤代償	・農道計画画路上に生育している、希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)に配慮を検討する。	①回避 ⑤代償	・希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)は、調査範囲を広げて生育調査をしたところ、付近に個体の生育を確認したため、専門家と相談の上特に移植等は行っていない。	
			①回避 ⑤代償	・農道路線選定にあたっては、希少植物(ヤブサンザシ)の回避または移植(代償)を検討する。	①回避 ⑤代償	・イノシシの害を仕掛けるためとりのけられ消失したため、配慮対策ができなくなった。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
6	H15	ため池等整備事業	水晶池 (鳴門市)	②最小化	・堤体下流側法面に、在来植物の植生を復元する。	②最小化	・堤体下流側法面に、在来植物の植生を復元した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年夏・秋季の2回モニタリング調査を実施。(秋は、補足的に実施) ・堤体下流側法面と自然型擬石ブロックの間隙部に、在来植物の生育を確認した。
				②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張等を実施し、植生空間を創る。	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創った。	
				④軽減/消失	・工事期間中の水生生物の生育環境の確保をおこなう。	④軽減/消失	・工事期間中の水生生物の生育環境に配慮するため、浅瀬の水たまりを創設した。	
7	H15	ため池等整備事業	池谷池 (阿波市)	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張等を実施し、植生空間を創る。	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張等を実施し、植生空間を創った。	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年8月にモニタリング調査を実施。 ・自然石法面の間から植生が見られ、水生生物の生育環境が創設されている。
				④軽減/消失	・水生植物の生育環境及び生育空間の確保を行う。	④軽減/消失	・コンクリート水路の側壁部及び底版部に植生ヤシマットを設置し、水生植物の生育空間確保と水質浄化を図った。	
9	H15	地盤沈下対策事業	藍住2期 (藍住町)	⑤代償	・工事区域に生育する、希少植物(コイヌガラシ)に、移植を検討する。	⑤代償	・パイプラインの施工にあたり、希少植物(コイヌガラシ)を、約15株移植した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度の夏期の大干ばつで、枯れてしまった。 【原因】 <ul style="list-style-type: none"> ・移植先での水不足があった。今後の移植について注意する。
				④軽減/消失	・堤体法面部の植生に対する配慮対策として、盛土には現況の植生土壌を使用する。	④軽減/消失	・堤体法面部の、盛土には現況の植生土壌を使用した。	
10	H16	経営体育成基盤整備事業	平島上 (那賀川町)	①回避 ②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・工事区域に生育する、希少植物(フジバカマ・ミズマツバ・スズメハコベ)に配慮する。	①回避	・排水路工事区域に生育する、フジバカマに配慮し、排水路の計画位置を変更し、回避して施工した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年に専門家による、モニタリング調査を実施した。
				③修正 ④軽減/消失 ⑤代償	・水生動植物(メダカ・ドジョウ)の生息環境に配慮する。	③修正	・ポンプ場内に、遊水池を設け、トンボ等の水生動植物の生息空間を設置した。	
				②最小化 ④軽減/消失	・両生類(トノサマガエル)の生態系に配慮する。	②最小化	・水路側壁に水路から水田への移動可能なスロープを設置した。	

採択 番号	採択 年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
11	H16	広域農道事業	徳島東部 3期 (徳島市他)	①回避 ⑤代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(ギンラン・イズハハコ)に配慮を検討する。	⑤代償 —	・計画路線の変更は困難なため、希少植物(ギンラン)の移植を行った。 ・希少植物(イズハハコ)は、調査範囲を広げて生育調査をしたところ、付近に多数の個体の生育を確認したため、移植等を行っている。 ・【原因】 ・鳥獣被害等により、移植箇所周辺において生育環境に変化があったため。	・ギンランについて、移植先周辺で生育状況の調査を行ったが、確認出来なかった。
12	H16	農免農道事業	高部5期 (吉野川市)	②最小化 ①回避 ⑤代償	・道路側溝に小動物(カエル、ヘビ等)の這い上がられる構造を検討する。 ・計画路線上に生息している、タシロランへの生育に配慮する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
13	H16	国営附帯営農地防災事業	六条 (上板町・板野町)	②最小化 ④軽減/消失	・道路横断暗渠(谷川)を、魚類(カワヨシノボリ等)が移動可能な構造を検討する。(円形コルゲートパイプ等)。 ・農道計画路線上に生育している、希少植物(セトウチホトトギス・ミヤコアオイ)に配慮し、回避又は移植を検討する。 ・農道計画路線上に生育している、希少植物(サケバゼリ)に配慮し、回避又は移植を検討する。 ・道路側溝は、地上徘徊性動物(ヒバカリ/ヘビの1種)が這い上がられる構造を検討する。	①回避 ④軽減/消失	・農道計画路線を再検討し、希少植物(セトウチホトトギス・ミヤコアオイ)の生育に配慮し、路線計画を変更し、回避した。 ・再調査の結果、普通のゼリだったため、特に対策は無し。 配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
14	H16	ため池等整備事業	神明池 (阿波市)	①回避 ⑤代償 ②最小化 ④軽減/消失	・工事区域に隣接して生育している、希少植物(コイスガラシ)の配慮(移植等)を検討する。 ・水生生物(トウヨシノボリ、モクスガニ・トンボの幼虫等)の生息環境の保全のため、の配慮を検討する。 ・堤体部の植物(ナンテンハギ)保全のため、移植等を検討する。 ・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	①回避 ②最小化	・コイスガラシの生息箇所は農地の畦畔部であり、道路区域内のパイプライン工事の方法等を検討した結果、生育区域への影響が無いように工事を施工した。 ・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る工事を実施。 ・工事区域内のナンテンハギは、確認されなかった。又、調査区域を広げたところ工事区域外に植生が確認された。 ・工事中におけるモクスガニに配慮し、事前に移動した。	・植生が繁茂してきており、生育環境を保全できている。

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
15	H16	ため池等整備事業	糟池 (吉野川市)	②最小化 ④軽減/消失	・水生生物(メダカ、エビ、トンボ等)保全のため、堤体護岸の工法を一部自然石張護岸にする等の配慮を検討する。 ・堤体部の植物(コカモメヅル)保全のため、配慮する。	②最小化 ④軽減/消失	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る工事を実施した。 ・工事に当たり、コカモメヅルを一時避難し、工事完了後、現況生育付近に復元させた。 ・工事中における水性生物(メダカ、コイ)に配慮し、事前に移動した。	・平成19年6月に移植後、消滅していることが判明したことから、平成21年11月に再移植した。
16	H16	中山間地域総合整備事業	牟岐 (牟岐町)	②最小化 ④軽減/消失	・取水堰の計画にあたりは、魚類(ヤマトヌマエビ)が遡上できる構造を検討する。 ・希少種(ミズワラビ、スズメハコベ、ウスゲチヨウジタデ)が入った表土を仮置き、ほ場整備後にその表土を戻した	②最小化 ④軽減/消失	・取水堰は、魚類(ヤマトヌマエビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。 ・ほ場整備において、希少種(ミズワラビ、スズメハコベ、ウスゲチヨウジタデ)が入った表土を戻した	・平成20年度調査により、希少種(ミズワラビ、スズメハコベ)を確認した。 なお、今回の調査では、ウスゲチヨウジタデは確認されなかった。
17	H16	中山間地域総合整備事業	池田南部 (池田町)	②最小化	・農業用水路に、カエル・ヘビ・イモリ等の徘徊生小動物の脱出用のスロープ等の設置を検討する。 ・道路側溝等について、徘徊性動物(アカガエル)に配慮し、這い上がれる構造を検討する。	②最小化	・排水路に、カニ・カエル・ヘビ等の生息環境に配慮し、石積み及びびつトン籠等による護岸を設置した。 ・カエル・イモリ等の徘徊生小動物の脱出用のスロープ等の設置を行った。 ・道路側溝はアカガエル等が這い上がられる構造とした。	・平成20年度調査により、水路内で小動物の死骸等は見られず、スロープが機能していると思われる。

採択 年度 番号	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
23	H17 中山間地域総合整備事業	三好 (三好市)	②最小化 ①回避 ⑤代償 ①回避	・取水堰の計画にあたっては、魚類が遡上できる構造とする。 ・排水路計画路線上に希少種(ヤマバイバラ)が確認されたため、排水路の路線を検討する。 希少植物(ユキモチソウ)を回避して増川排水路改修工事を行う。	①回避 ①回避	取水堰の計画を中止した。 ・希少種(ヤマバイバラ)の生息に配慮し、排水路の路線を一部変更し、回避した。 ・希少種(ユキモチソウ)の生息に配慮し、生育区域を囲い回避した。	・排水路の横で、良好に生息している。
24	H18 経営体育成基盤整備事業	古養水・東 北 (阿波市)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・ため池改修に際し、魚類(トウヨソボリ)の保全を検討する。 ・調整水槽近傍にピオトープを創出し、希少水生動物(メダカ、ヒメマルタニシ、コオイムシ)の生息環境を確保する。 ・希少植物(カワジシャ)の、生育環境に配慮するため既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。 ・希少植物(センダイスゲ、コカモメヅル)は、一時避難及び生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。	②最小化 ④軽減/消失 ④軽減/消失	配慮箇所周辺の工事未実施 ・新たなピオトープの創設は困難なため、池区内にあるため池の水が枯れないように、水の放水管を設置し、希少水生動物(メダカ、ヒメマルタニシ、コオイムシ)の生息環境を確保する。 ・パイプライン工事後のカワジシャの生育している排水路の状況は、ため池からの排水が常時流れており生育環境の大きな変化は無く、カワジシャの生育環境は保たれている。 ・支線パイプライン配管ルートの変更により、当該希少植物の生息環境の改善を回避した。	未
25	H18 経営体育成基盤整備事業	御所 (阿波市)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・希少植物(カワジシャ)の、生育環境に配慮するため既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。 ・調整水槽近傍にピオトープを創出し、水生動物(ギンブナ、カワムツ、ドクコ、カワヨシノボリ)の生息環境を確保する。 ・希少植物(ナンテンハギ、ヒメミノハギ、コギンギシ)は、一時避難及び生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。	④軽減/消失 ②最小化 ②最小化 ④軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。 配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
26	H18 国営附帯県営農地防災事業	大山 (上板町・ 板野町)	②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償 ④軽減/消失	・希少植物(ヒメミノハギ)の配慮し、仮移植し工事後戻す等について検討する。 ・水生動物の生息環境に配慮するため、既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	①回避 ④軽減/消失 ④軽減/消失	配慮箇所周辺の工事未実施 ・生息箇所は農地の畦畔部であり、道路区域内でのパイプライン工事の方法等を検討した結果、生育区域への影響が無いように工事を施工した。 ・かんがい期に既存水路へ水を流すことで、水生動物の生息環境に配慮した。	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等。(予定)
27	H18	ため池等整備事業	奥の池 (美馬市)	④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ミンナオシ)については、工事前に種を採取し、工事後に付近に播く。 ・希少生物(モアアガイ)については保護し、工事後に上のため池に戻す。 ・希少植物(ソクシンラン)については、詳細計画により影響があれば、移植を検討する。 ・希少植物(イトモ)については工事後に上のため池に戻すため、冬期に工事を行う。	①回避 ①回避 ⑤代償	・仮設道路計画路線を変更することで、希少植物への影響を回避した。 ・池の水を抜く際、個体採取を試みたが、モアアガイが発見できず、採取できなかった。 ・詳細計画(仮設工を含む)の結果、工事範囲に掛かっておらず、ソクシンランには影響が無い。 ・イトモ生育箇所の土を仮置した後、工事完成後に戻す予定。	
28	H18	農免農道事業	勝浦南部上 3期 (勝浦町)	④軽減/消失	・特に配慮する希少種等はないため、小動物や昆虫等の移動経路の確保のため、側溝や升、横断工を設置する場合、這い上がれる構造とする。	④軽減/消失	・盛り土法下面部の水路に、小動物が這い上がれる構造を施工した。	
29	H18	河川応急対策事業	有次第2 (徳島市)	④軽減/消失	・特に配慮を行う希少種等はないため、周辺に生息する水生動植物に配慮し、工事中の濁水に留意する。	④軽減/消失	・工事中の作業機械を低公害型の機種にし、重機からの油類の流出、飛散に注意する。また、水質汚濁に注意するため、シルトフェンスを使用しながら、現在工事を実施中である。	
30	H18	中山間地域総合整備事業	那賀川西部 (阿南市)	④軽減/消失	・道路計画路線内の水田に希少植物(ミスズツバ)が確認されたため、水田土壌の再利用を行う。	④軽減/消失	・希少植物(ミスズツバ)の種子を含む水田土壌の仮置きを行い再利用し、工事を施工した。	未
31	H19	営体育成基盤整備事業 (排水対策型)	竹須賀 (徳島市)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・希少水生動植物(モロコ、ヤリタナゴ、モクスガニ)の生息環境に配慮するため、水路構造の検討及び在来水生動植物の生育区間を確保する。	②最小化 ④軽減/消失	・底版中央部はコンクリートを張らず、土砂溜まり部分をつくり在来水生動植物の生息空間を確保した。	・平成24年度調査において、魚類6種(ヤリタナゴ、コウライモロコ等)を確認した。
32	H19	ため池等整備事業	藤谷池 (阿南市)	④軽減/消失 ②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ズズサイコ)は、工事中一時避難し、工事後に戻すなどの配慮を行う。 ・水生生物(ドブガイ)に配慮し、溜水内に移動させる等の配慮を行う。	④軽減/消失 ④軽減/消失	・希少植物(ズズサイコ)は、堤体が工事中であるため一時避難させている。 ・水生生物(ドブガイ)に配慮し、浅瀬の水たまりを創設した。	・平成26年度調査において、ズズサイコを確認した。
33	H19	ため池等整備事業	一の坪 (吉野川市)	②最小化 ④軽減/消失	・希少植物(ホツスモ)については工事後に上のため池に移動させる等の配慮を行う。また、冬期に工事を行う。また、溜水の環境を保全する。 ・希少植物(コカモメヅル)は、工事中一時避難し、工事後付近に播く。	②最小化 ④軽減/消失	・希少植物(ホツスモ)については工事後に上のため池に移動させる等の配慮を行う。また、冬期に工事を行った。また、工事範囲以外は立ち入らない。 ・希少植物(コカモメヅル)は、専門家の指導の下、種子を採取し栽培すると共に、工事の影響のない類似環境に一時移植し、生育を確認。平成23年度ため池工事全体の完了後播種を予定。	・平成22年度は4箇所を開花を確認したが、平成23年度には確認できなかった。
34	H19	湛水防除事業	上八万 (徳島市)	④軽減/消失	・特に配慮を行う希少種等はないため、周辺に生息する水生動植物に配慮し、工事中の濁水に留意する。	④軽減/消失	・工事中の排水について、濁水を排出しないように、沈砂水槽を設置した。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
35	H19	経営体育成基盤整備事業	段岡 (鳴門市)	④軽減/消失	・希少植物(コギギシ・オオアブノメ等)は、生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。 ・希少魚類(カワバタモロコ等)の生息環境に配慮した排水路の構造とする。	④軽減/消失	・希少植物(コギギシ・オオアブノメ等)は、生育土壌を工事後の盛土に使用したり、環境型ブロックの覆土使用などの配慮を行った。 ・関係機関と連携して、カワバタモロコの増殖・環境学習に取り組んだ。 【原因】 ・平成26年度に放流したカワバタモロコは、水槽で飼育されたものであり、自然環境への耐性が弱かったため。 ・工事締切時及び途中の生息実態の調査を行ったがカワバタモロコは観測できなかった。	工事を実施中
36	H19	中山間地域総合整備事業	三野西部 (三好市)	⑤代償	・平成23年度工事予定箇所から絶滅危惧種のオニバスが確認された。オニバスの種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型の水路(緑田水路)に、播種する。 ・希少植物(ミヤアオイ・アケボノシュラン)について、工事に影響のある個体を代替地に移植する。	⑤代償	・希少魚類(カワバタモロコ等)の生息環境に配慮して片側を勾配のある(1:1.5)環境型ブロック護岸とし残り2面は型枠渠とし底版中央部はコンクリートを打設しない排水路構造としている。また、地権者の理解の得られたレンコン田には魚道の設置を行う予定である。 ・オニバスの種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型の水路(緑田水路)に、播種した。 ・希少植物(ミヤアオイ・アケボノシュラン)について、工事に影響のある個体を代替地に移植した。	・平成26～28年度の3ヶ年、オニバスの生育が確認された。 ・移植先において生育していることを確認した。
37	H20	河川応急対策事業	大井堰 (海陽町)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・回遊性魚類(カマキリ)に配慮するため、魚道の改修において、生物的連続性の確保できる構造とする。	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・護岸の激しいエプロンを補修するに当たり、左右岸部は植え石魚道として整備することにより多種の魚介類の移動を可能とした。 ・莖菜とし部を魚道として整備することにより、多種の魚介類の移動を可能とした。 ・施工時の作業ヤードを河川内に設け、在来植生への影響を軽減した。	・平成25,26年春にアユの遡上を確認した。また、9月にはエビの遡上も確認した。 ・在来植生への影響は見られない。
38	H20	河川応急対策事業	長田堰 (徳島市)	②最小化	・水路内の希少植物(タコノアシ・ウマスダ)につき、湿地環境を保つ。河道内のタコノアシは、場所を確認し、工事の影響がないようにする。	②最小化	・水路内の希少植物(タコノアシ・ウマスダ)については、水路の通水を確保することにより湿地環境を保全した。 ・今回の工事範囲については河道内のタコノアシの生息域には影響が及ばない。	
39	H20	国営附帯県営農地防災事業	唐園 (上板町・板野町)	④軽減/消失	・工事中の土砂流出や濁水流下に注意し、または、重機からの油流出に注意し、在来水生動物生育環境への影響を少なくする。 希少植物(サデガサ・クロモ)は、パイプライン化による直接的な影響はないが、生育環境は保全する。	④軽減/消失	・シルトフェンスの施行により汚濁を防止し、在来水生動物の生育環境に配慮した。 ・現地発生土で埋戻しを行い、生息環境を保全した。	未
				②最小化	クロモ生育地付近の工事は、出来る限り冬期に実施し、生育している水路については、4月から9月まで既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	②最小化	・かんがい期には既存用水に水を流すことにより配慮を行った。 また、工事は冬期に実施した。	未

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
40	H20	基幹農道事業	池田3期 (三好市)	④軽減/消失	・農道計画路線付近に生育している、希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)に 施工中に土砂が流れ落ちるような対策をする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				①回避	・農道計画路線付近に生育している、希少植物(エビネ・ミヤコアオイ) に影響が無いように回避して施工をする。	①回避	・現場作業員に踏みつけや不必要な伐採はしないよう指示し、希少植物(エビネ・ミヤコアオイ)に影響が無いように回避して施工を行った。	
				③修正	・溪流横断面部については、橋梁もしくはボックスカルバートの構造をナカレ ホトトギス等が遡上できる構造とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
41	H21	経営体育成基盤整備事業	大幸 (鳴門市)	④軽減/消失	・希少植物(サデグサ・コギンギン)等は、生育土壌を工事後に戻すなど の配慮を行う。	④軽減/消失	・希少植物(サデグサ・コギンギン)等は、生育土壌を工事後の 盛土に使用したり、環境型ブロックの覆土使用するなどの配 慮を行った。	工事を実施中
				②最小化	・希少魚類(カワハバタモロコ等)や周辺地域で生息が確認された(カワハバタモロ コ等)の生息環境に配慮した排水路の構造とする。	②最小化	・希少魚類(カワハバタモロコ等)の生息環境に配慮して片側を 勾配のある(1:1.5)環境型ブロック護岸とし残り2面はし型欄 架とし底版中央部はコンクリートを打設しない排水路構造とし ている。また、地権者の理解の得られたレンコン田には魚道 の設置を行う予定である。	・工事締切時及び途中の生息実態の 調査を行ったがカワハバタモロコは観 測できなかった。
42	H21	農道整備事業	大森西2期 (鳴門市)	②最小化	地区内水路網の連続性を確保する。	未	工事を実施中	工事を実施中
				④軽減/消失	ヒメタデは生息地の土壌、アゼスゲは個体を、タコアシは個体と生息 地の土壌を工事に影響のないところへ移動しておき工事後戻す。	未	工事を実施中	工事を実施中
43	H22	経営体育成基盤整備事業	坂野2期 (小松島市)	⑤代償	ヒメタデ(生息地の土壌)、アゼスゲ(個体)、タコアシ(個体と生息地の 土壌)を代替の生育場所へ移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・希少植物(ヒメナミキ・クロモ)は、水路内に土砂が堆積する環境を保 全する。希少水生動物(ヤリタナゴ・ヌマムツ等)の生息空間を有した水 路構造とする。	②最小化	・水路断面の側壁上部を無ライニング(土羽)とすることで、土 砂堆積が可能な環境を創出し、希少植物や水生動物の成 育環境を保全した。	未
43	H22	経営体育成基盤整備事業	坂野2期 (小松島市)	④軽減/消失	・希少植物(ミズワラビ・クロモ等)は、生息地への影響を軽減する。	④軽減/消失	・工事を冬季に実施することにより影響を軽減した。	
				⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ・アゼスゲ等)は、代替えの生息地へ移植す る。	④軽減/消 失 ⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ)を代替の生育場所へ移植する とともに、種子を採取し、工事の完了している畦畔に播 種した。 ・希少植物(アゼスゲ)を一時避難させた。 (工事完了後に戻す予定)	・移植箇所において、良好に生育して いることを確認。

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等。(予定)
46	H24	経営体育成基盤整備事業	長生西部 大谷工区 (阿南市)	①回避	・現況の生育環境を残し、営農の中で生育地周辺の維持管理(草刈り)を継続していく。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張、魚巣箱)とし、水生動物の生息空間を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とし、水生植物の生育空間を復元する。(オグロコウホネ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・大津田川と排水路の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・簡易型水田魚道の取付	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・濁水流出対策として、工事現場内に沈砂地の設置及び、工事中の作業機械の点検整備に努め、重機からの油類の流出・飛散に注意して工事を行った。	
				④軽減/消失	・水田表土の再利用を行い生育環境を復元する。 (ミズワラビ、ミズマツバ)	④軽減/消失	・希少植物の種子を含む表土を剥ぎ取って保管し、整備後の水田の表土として再利用することで、生育環境の復元に努めた。	工事実施中
				⑤代償	・生育地の土壌をブロック移植し、種子を採取しておき移植先周辺に播種する。 (アオヒメタデ、ミズタカモジ、アゼスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、魚介類の生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸(多孔質の張りブロック等)を堤体の一部に使用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・堤体外側の法面保護として、シハ等の在来種による緑化を行い、外来種の侵入を抑制する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
47	H24	ため池等整備事業	坊僧池 (美馬市)	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・地元水利組合と連携し、ため池の水を計画的に抜くことに努めている。	
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意した。	
				④軽減/消失	・工事後の植生の復元が速やかに行われるよう、工事による改変・影響を極力少なくする。	④軽減/消失	・近傍に鶏舎があることから、取水期以外は池の水を落水しており、この落水期間に合わせて工事を実施した。	

採択 年度 番号	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等(予定)
48	ため池等整備事業	相名池 (阿南市)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
			④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際に、徐々に水を排出し、在来の水生動物が避難できるようにした。	
			④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土(ミズマツバの埋土種子を含む)を影響の無いところに仮置きし、工事後の戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
			④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。 池も干上げの際、オオクチパス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度の範囲とした。(なお、オオクチパスは、池内には生息していなかった。)	
49	農業競争力強化基盤整備事業	大幸西 (鳴門市)	②最小化	・水量が減少すると考えられる既存水路に、計画の排泥工より適量の水を流し、水生動物への生息環境を保全する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
			③軽減/消失	・工事の影響を受けるサデクサ、ミズアオイは生息地の土壌を、コギンギンは個体を、工事の影響の無いところへ移動し、工事後に戻す、または近隣の類似環境の場所へ移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
			②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
50	ため池等整備事業	源太池 (阿波市)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
			④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・地元関係者と調整し、ため池の水を徐々に排出している。	
			④軽減/消失	・希少種(コカメヅル)の個体及び埋土種子を含む表土を、影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。また、事前に種子を採取し、工事後に播く。	④軽減/消失	・コカメヅルの個体保護を行った。	・避難先において、良好に生育している。
			④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土(ミズマツバの埋土種子を含む)を影響の無いところに仮置きし、工事後の戻す。	④軽減/消失	・水田の表土は、工事に影響のないところへ仮置きし、工事後に戻す予定。	
			④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。 池も干上げの際、オオクチパス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは、必要最小限度としている。	工事実施中

採択 年度 番号	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等.(予定)	
51	H27 農村地域防災減災事業	那賀川・小 松島 (小松島市)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を還元する。(クロモ、クロカワズスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。(メダカ、ドジョウ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意した。		
			④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(クロモ、クロカワズスゲ)に影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。(クロモ、クロカワズスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生動物の生息空間を還元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。(メダカ、ドジョウ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
52	H27 農村地域防災減災事業	那賀川・今 津 (阿南市)	④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(コイヌガラン)に影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	
			⑤代償	・近隣の類似環境の場所に、移植する。(コイヌガラン)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
53	H27	農村地域防災減災事業	那賀川・平島 (阿南市)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を覆元する。(クロモ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。(メダカ、トシヨウ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。(クロモ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。(クロモ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
54	H27	農村地域防災減災事業	那賀川・南岸 (阿南市)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を覆元する。(クロモ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、水路への簡易型水田魚道を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。(コイヌガラン、クロモ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(ヒトツバハギ)に影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。(クロモ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・近隣の類似環境の場所に、移植する。(ヒトツバハギ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等.(予定)
55	H27	農村地域防災減災事業	三村用水 (三好市)	②最小化	・頭首工での取水量を調節し、生息区間の水量を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(イヌハギ)に影響を受けない場所へ避難させる。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・近隣の類似環境の場所に、移植する。(イヌハギ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
56	H28	農業競争力強化基盤整備 事業	大代成野 (鳴門市)	②最小化	・水路側壁部にブロックネット・フトンかご等を敷設し覆土を行い、水生植物の植生回復により、魚介類の生息空間を創出する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・コギンギン・コイズガラシの個体を生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動しておき、工事後戻すこととする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・オニバスの種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型水路に播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
57	H28	農業用河川工作物応急対策事業	神野 (海陽町)	②最小化	・右岸側魚道の破損による漏水を修復し、新たに詰め石により魚道部の水深・流速に変化を設け、遊泳力の弱い魚種でも機能する形式とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・堰下流部の護床部を改修し、現況河床にすり付け、堰での河川の段差、分断を解消し、生物的連続性を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・仮設道や作業ヤード設置による用地をできる限り少なくし、在来植生への影響を軽減する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施